

[様式14]

(対象事業:1. 子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業

3. ミュージアムを核とした地域の人材・組織の育成・連携・活用に係わる事業)

事業名: 徳川美術館

「子どものための大名文化体験プログラム」  
の拡充と普及

事業者名: 徳川美術館

連携事業館名:

住 所: 名古屋市東区徳川町1017

TEL: 052-935-6262

FAX: 052-935-9444

HPアドレス: <http://tokugawa-art-museum.or.jp>



①施設概要

徳川美術館は尾張徳川家に伝えられた数々の重宝、いわゆる「大名道具」をそっくりそのまま収め、展示・公開。収蔵品は徳川家康の遺品を中心に、初代義直（家康第九子）以下代々の遺愛品や、その家族が実際に使用した品ばかり一万数千件におよぶ。世界的にも有名な「源氏物語絵巻」をはじめ国宝9件、重要文化財53件、重要美術品44件を含み、徳川美術館ならではの豊富さ、質の高さ、そして保存状態の良さを誇る。

②事業の意図目的

長い歴史の中で培われ、受け継がれてきたさまざまな日本の文化に、子どもたちが日常的に親しく接することのできる場をつくり、またその場を通じて、より深い理解と関心を得られるよう指導することで、日本文化への愛着と誇りを醸成する。

③事業概要

①「子どものための大名文化体験プログラム」の実施

- ・ 平成19年9月から平成20年3月末までの毎週土曜日（8月を除く）に「土曜子ども教室」を開催。展示室での作品解説と大名文化を体験する。
- ・ 8月の毎日（27日間）「夏休み子ども教室」を開催。

歴史教室「戦国時代」と歴史体験教室「作って遊ぼう貝あわせ」を毎日3回実施。ギャラリー・クイズは常時実施し、参加者に記念品を配布。

②「子どものための大名文化体験プログラム」を実施する人材の育成

子どものための大名文化体験プログラムの指導にあたるボランティアの人材育成のための講習（救急・接遇、話し方、陶磁器、刀剣、能・狂言）

③「子どものための大名文化体験プログラム」のハンドブックの作成

「土曜子ども教室」の内容を、学校教育や他の美術館・博物館などの場においてそのまま実施することができるよう、教育者向けの導入ハンドブックを作成する。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 ( )  
作成した報告書等  
ビデオ ( )  
冊子 (「子どものための大名文化体験プログラム」手引書 )  
その他 ( )

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 4, 6 2 9 人

内 訳 夏休み歴史教室 クイズ2,101名、貝あわせ919名、歴史教室990名、  
兜づくり42名  
土曜子ども教室 577名

## (1) 事業の実施状況について

### ①「子どものための大名文化体験プログラム」

- ・ 平成19年9月から平成20年3月末までの毎週土曜日（8月を除く）に「土曜子ども教室」を開催。1日3回各1時間。（午前11時～12時、午後1時30分～2時30分、午後2時30分～3時30分）。対象は小中学生。内容は月ごとに替わり（9月能面と小鼓、10月和紙の美しさ、11月巻物「源氏物語絵巻」、12月大名とお正月、2月お雛さまのいろいろ、3月お姫さまのよそおい）、展示室での作品解説と大名文化を体験する「体験タイム」（9月能面と小鼓、10月美しい紙を作る、11月ミニ源氏物語絵巻づくり、12月子ども出世すごろく、2月貝あわせ、3月琴にふれる）。

子ども577名、大人256名参加。

- ・ 8月の毎日(27日間)「夏休み子ども教室」を開催。

歴史教室「戦国時代」を午前11時～11時30分、午後1時～1時30分、歴史体験教室「作って遊ぼう貝あわせ」を午前11時45分～12時15分、午後1時45分～2時15分、3時15分～3時45分の各3回実施。

ギャラリー・クイズは常時実施し、参加者に記念品を配布。

また、8月18・19日の二日間で親子で変わり兜を作成。

クイズ2,101名、貝あわせ919名、歴史教室990名、兜づくり42名



土曜子ども教室

夏休み子ども教室 歴史教室・貝あわせ・ギャラリークイズ





②「子どものための大名文化体験プログラム」を実施する人材の育成

子どものための大名文化体験プログラムをボランティアに任せて実施している。より多くのボランティアが教育効果を上げられるためには、プログラムの背景にある文化や歴史に関する理解・知識と、子どもが興味をもち楽しく参加できるための接遇や会話の技術の両方が必要であるため、プログラムに応じ、下記の研修を行い人材の育成を図った。

第1回 2月13日 救急 名古屋市東消防署救急係・

マナー 名古屋東急ホテル CS推進室 マネージャー

吉澤みやこ氏 参加者：ボランティア 80名

第2回 2月20日 話し方「気持ち伝わる話し方」

NHK名古屋放送局 アナウンサー 田中孝宜氏 参加者：ボランティア 90名

第3回 2月26日 陶磁器「尾張の近世陶磁器の歴史について」

元愛知県陶磁器資料館学芸部長 浅田員由氏 参加者：ボランティア 95名

第4回 3月7日 刀剣「日本刀の基礎知識」

熱田神宮宝物館 学芸員 福井款彦氏 参加者：ボランティア 80名

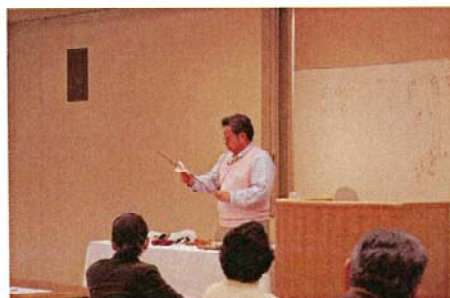
第5回 3月14日 救急・マナー 第1回と同じ内容 参加者：ボランティア 75名

第6回 3月27日 能・狂言「尾張の能・狂言」

名古屋女子大学教授 囃子和利氏 参加者：ボランティア 100名



救急・マナー



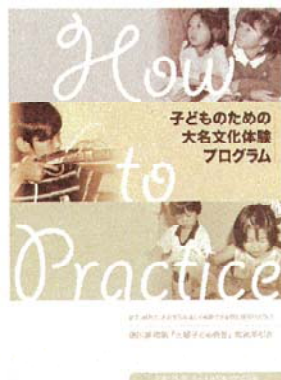
話し方・刀剣

### ③「子どものための大名文化体験プログラム」のハンドブックの作成

平成14年度から継続して行ってきた「土曜子ども教室」の内容を、学校教育や他の美術館・博物館などの場において、そのまま実施することができるよう、教育者向けの導入手引書を作成した。

この手引書の作成にあたり、学校との関わりやすい内容にするため、名古屋市内の小中学校6名の教諭に意見をいただいた。

具体的には、「土曜子ども教室」の実施にあたってボランティアに対し行ってきた、10のプログラムシナリオの研修の内容及び資料、プログラムで用いていた20のワークシートをまとめ、館外での使用を踏まえて改良した上で、出版物として発行した。



#### (2) 地域との連携について

上記の手引書作成にあたり、名古屋市内の小中学校の教諭6名に内容について会議を持ち、意見を得た。さらに、その教諭に学校との連携方法について指導してもらった。まだまだ、小中学校の現場の教諭には博物館・美術館での子ども向けプログラムについては周知されておらず、活用もされていないことがわかった。夏休み中に教諭は研修義務があるので、その時期に当館での教育普及活動をもっと小中学校の教諭に周知するための研修会を開催すると、効果があるとアドバイスをもらった。そこで、20年度夏休み中に小中学校の教諭対象の研修会を実施を計画することにした。

また、当館のボランティアは大半が地域の婦人で、そのボランティアが研修を重ね、子ども向け教育普及活動「土曜子ども教室」「夏休み子ども教室」を



運営・指導している。

↓ 教員とのディスカッション・ボランティアの研修



### (3) 成果物について

「子どものための大名文化体験プログラム」手引書については、名古屋市内小中学校、図書館、愛知県下の教育委員会、全国の博物館・美術館に配布した。

他の博物館・美術館から、手引書の追加送付依頼や子ども向けプログラムについての問い合わせが寄せられた。また、学校からはこの手引書から体験学習の依頼があった。

### (4) 参加者の反応

「夏休み子ども教室」は平成3年より16年間、「土曜子ども教室」は平成14年から6年間、各継続して実施してきた。夏休みの毎日、毎週土曜日は子ども向けのプログラムを実施していることが広く周知されるようになった。

「夏休み子ども教室」はクイズ・歴史教室・貝あわせで毎年、のべ約4,000名の参加ある。「土曜子ども教室」については毎年、子ども・大人あわせて年間約2,000名の参加あり、リピーターが多い。

小中学校生が大半だが、積極的に参加する親子ばかりで、刀や鎧・兜、掛物・巻物など、日本の伝統文化にとっても興味を持ってくれた。

### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

芸術拠点形成事業と言うことで、地元の教諭とのディスカッションが容易できた。そこで、現場の教諭と美術館との距離を実感し、今後の学校との関わりについて学ぶことが出来た。

さらに、芸術拠点形成事業によって「夏休み子ども教室」や「土曜子ども教室」を継続して実施できた。地域の子どもたちだけでなく、ボランティアも子どもに対する指導のために、大名文化を学び、生涯学習となっている。